

「The Sense of Wonder」(センス・オブ・ワンダー) 神秘さや不思議さに目を見はる感性

アメリカのベストセラー作家であり海洋生物学者であった、「レイチェル・カーソン」が、命の日は消えていくその寸前まで書いていた本の題名です。自然をどのように感じ取られたらいいのか、自然の美しさや神秘を観察させたい、あらゆる生きものがお互いにかかわりあって暮らしている、どのような生命でも大切であることを感じさせたい等、考えたり悩んだりしている方には説得力のある1冊です。「レイチェル・カーソン」は、地球の素晴らしさは生命の輝きにある。地球の美しさを感じるのも、守るのも、破壊するのも人間であると考えていました。

幼児期の今、「非認知的能力」を育てることが将来の成長に大切であると思います。身近にある自然を観察することで、子どもの感性を豊かにしていきたいものです。観察の機会をもち子どもの驚きや不思議感を一緒に共有するだけで良いです。

ひまわりこども園では、子どもたちの「なんでだろう?」「どうしてだろう?」という思いを、これまで以上に引き出そうという思いで、「自然の時間」を実施している。子ども達の姿を見ていると、キラキラした眼差しで「先生なんで?」と聞く姿がある。とても嬉しくなる。この純粋な心を大切にし、もっともっと伸ばしてあげたいとより強く感じる。



上の写真は、アゲハチョウの幼虫を手にとっている様子です。「いとがあった」という表現をしました。自分で触れて指先で感じた感

〈大切にしたい考え方〉

- 子どもの主体性を高める
幼児教育
- 興味関心を大きくする環
境構成
- 生活の場としての園生活

ひまわり6

元気な子どもたちとともに

〈教育目標〉

元気で思いやりのある
ひまわりっ子

〈職員目標〉

- チームワーク
- 主体性を育む保
育
- 資質向上

触を伝えてくれたものです。またある時は、雨が降った後の水たまりに入り、足踏みをして、足音を楽しんだり、しぶきが飛ぶのを楽しんだり、雨を友達にしながら楽しんでいる姿があります。靴もびしょぬれになるのもお構いなし、裸足になっている子は、足踏みのできる泥の感触を楽しんでいます。楽しい、どうしてこうなるの、どんな音になるのかな・・・不思議を楽しんでいます。ある組の給食時には、「雨はどうやって降るの」「水はどこからくるの」「雨は雲の中に雨つぶが入っているんだよね」「水だから海からくるんじゃない」など、日頃不思議に思っていることを、言葉で伝えていました。周りの様子をしっかりと観察しているからでしょう。大人が何気なく見ている物事を、なんでだろうと感じる「なんで」という気持ちが大きくなってきているようです。そんな子どもでも「天気は神様が決めるんだよ」と話してくれます。なんとかわいい子ども

達でしょう。

最初に紹介した「レイチェル・カーソン」は、著書の中で、「動物や植物の名前を意識的におしえたりしません。私は何かおもしろいものを見つけるたびに、無意識に喜びの声をあげるの、彼もいつのまにかいろいろなものに注意を向けるようになっていきます。」「神秘さや不思議さに目を見はる感性をたもちつづけるためにはよろこび、感激、神秘などを子どもと一緒に再発見し、感動を分かち合ってくれる大人が、少なくともひとり、そばにいる必要があります。」子ども達の感性を豊かなものにする為には、難しいことを教える必要はありません。子どもと一緒に喜んだり、驚いたり、感動したりすればいいのです。このことは、小学校に入った後の、勉強についても同じようなことが言えると思います。教えるのではなく共に共有することが大切です。